

クロヒナスゲ	<i>Carex gifuensis</i> Franch.	絶滅危惧II類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定されており、継続的な減少が予測されるため。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	根茎は伸長して分枝し、緩く叢生する。基部の鞘は赤褐色～紫褐色、顕著な糸網を生じる。頂小穂は雄性、線形でヒメスゲより長い。雄鱗片は暗紫色～濃褐色。雌鱗片は暗紫色～濃褐色、鋭頭～鈍頭で短芒端、先端は歯牙縁。果胞は有脈、鱗片より長く、密に毛があり、嘴は短く、口部は凹形。花期は5月。	
生態的特徴	山地のやや乾いた樹林に群生する多年草。	 
分布状況	本州(東北・北関東・東海地方の一部)・四国(愛媛県)・九州(鹿児島県)に分布し、岐阜県では県南中部に分布する。	
減少要因	開発に伴う山林伐採。	
保全対策	山林の保全。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本眞理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦